

北海道芽室町 地域脱炭素マッチングイベント プレゼン資料(暫定版)

■地域脱炭素への基本的な認識と位置付け

地域脱炭素に関する行政計画・目標等

- ・芽室町地球温暖化防止実行計画(区域施策編)・・・令和6年5月策定
削減目標:2030年度 2013年度比48%削減(必要削減量:17,970t-CO₂)
- ・芽室町地球温暖化防止実行計画(事務事業編)・・・令和7年4月改定
削減目標:2030年度 2013年度比48%削減(必要削減量:3,638t-CO₂)

町長の意向

- ・計画を策定してから、具体的な取組へ
- ・計画の中で何をするかを明確にして、それを着実に実行する
- ・行政がまず率先して取組を進めていく
- ・ゼロカーボンはDXと同様、進めていかなければならない重要事項であると認識。そのため、現時点にあって、担当参事を置き、しっかりと進めていく体制を構築
- ・町財政との関連などもあるので、そのあたりは国や道とも協議を重ねながら対応を

■これまでの取組と現状認識

これまでの取組

○計画策定等

- ・地域脱炭素戦略調査(国補助活用)・・・区域施策編策定に向けた考え方等を整理
⇒町民・事業者へのアンケートを実施。実際の燃料等使用量(CO2削減量)を調査
- ・調査結果をもとに区域施策編を策定
⇒計画策定後、芽室町ゼロカーボンシティ宣言を行政報告で行う(令和6年9月)

○計画に基づく取組

- ・調査業務
公共施設等再生可能エネルギー導入可能性調査(国補助)
地域マイクログリッド導入ポテンシャル調査(道補助)
- ・啓発業務
職員研修(全職員向け)
事業者向けセミナー(町内で営業を行う、事業所がある事業者:約40人参加)
町民向けセミナー(町民 約50人参加)

- ・削減に向けた取組

- 町民向け補助事業創設(令和7年6月から)

- Jクレジット事業(令和7年7月 事業者等との協定締結)

- ・協議等組織

- 芽室町地球温暖化防止実行計画策定委員会(令和6年3月まで)

- 芽室町地球温暖化防止実行計画推進委員会

- 芽室町ゼロカーボン庁内推進会議

- ・視察対応

- NTTlabo(東京都:バイオマス発電視察)

- 埼玉県寄居町・新潟県長岡市(バイオマス発電<乾式・湿式>視察)

- 福島県浪江町・いわき市など(工業団地再エネ導入等事例視察)<令和7年10月予定>

議会議論の内容及び地域からの要望

○総務経済委員会(所管委員会)

(令和5年5月)

課の主要事業において、ゼロカーボンの実現に向けた取組の全体像について説明

(令和5年12月)

計画策定・組織設置(庁舎外・庁舎内)の内容について説明

(令和6年1月)

区域施策編概要について説明

(令和6年5月)

区域施策編策定内容について説明

(令和6年12月)

Jクレジット事業について説明

(令和7年2月)

町民向けゼロカーボン補助事業について説明(予算関連事項)

○一般質問(令和6年3月)

- ・芽室町における再生可能エネルギー普及促進の取組として、これまでの成果
- ・地域の脱炭素化の実現に向けた取組として、現状、課題、将来ビジョンに係る町長の見解

○行政報告

(令和6年9月)

芽室町ゼロカーボンシティ宣言

(令和7年7月)

ゼロカーボンの実現に向けた連携協定の締結について

※議会からはこれまでの取組や考え方について、特に反対意見等はなく、町が進める事項について着実に進めてもらいたいというスタンス。

○地域からの要望等

・町民アンケート(令和5年度実施)

ゼロカーボン推進のため、公共施設等の再エネ導入を進めてもらいたい

※アンケート選択項目の中で、最も多かった回答

○推進委員会・環境審議会での意見

芽室町は自然景観の素晴らしい町。日高山脈の景観や新嵐山から見る農村景観はほかにはない自然景観。これらを考えても、芽室町内が太陽光パネルだらけになるのは本意ではない。

■課題認識

まちの構造による課題

- ・基幹産業は農業、そのうち9割は畑作、1割が畜産という状況。
- ・町内に工業団地が3か所(西工業団地・弥生工業団地・東工業団地)。現在、新たに工業団地を造成する予定。そのため、環境省「自治体排出量カルテ」において、最も CO2 排出量が多いのは産業部門。運輸部門もやや多い状況。
- ・芽室町は日高山脈や農村景観が特徴の町。そのため、再エネ等による景観破壊を危惧する町民の方もいる(特に、太陽光発電設備に対する乱開発を危惧)。

これまでの取組からの課題

- ・町では、これまでに再生可能エネルギー導入の可能性、特に農業残さを活用したバイオマスについて模索してきたが、コストや需要の問題から実現に至らなかった(現時点においても、再エネ構築となるものがない)。
- ・事業者に対する意識醸成(セミナー等を開催しながら意識醸成に努めてきたが、現実にはさほど意識改革につながっていない。一方で、炭素税導入などを見据え、大企業が事業に関連する事業者への脱炭素への取組を促すことも想定され、その場合、中小企業がついていけるか)。

その他の課題

- ・ゼロカーボンへの取組を進めるためには、ハード面の整備が必要。しかし、それには多額の費用が生じることとなるが、活用できる補助事業がない(補助要件に事業を合わせられない)。

■その他

地域特性と強み

- ・芽室町は農業が基幹産業。畑作中心の農業で畑作4品のほか、とうもろこし・長いも・ごぼうなどの野菜も栽培が盛ん。さらに、近年ではメムロピーナッツ(落花生)の栽培も行っている。
- ・工業団地が3か所あり、日本甜菜製糖・Meiji・日本罐詰をはじめ、数多くの事業者が立地している。また、釧路・北見・旭川・札幌への各方面のハブとして、物流業が多く立地している。
- ・令和6年6月に日高山脈襟裳十勝国立公園が誕生、さらに新嵐山展望台から見る農村景観はさまざまな場面で写真が使用されるなど、町の美しい景観として認知されている。
- ・十勝地方の人口の約8割を1市3町が占めており、産業構造も類似していることから、ゼロカーボンの取組等も類似している。また、バイオマスをはじめとするゼロカーボンの取組が先進的である脱炭素先行地域が管内に2か所(上士幌町・鹿追町)ある。さらには、士幌町・本別町・大樹町など、取組に特徴がある自治体も他管内と比べて多い(参考となる取組事例が身近にあることから、相談しやすい環境にある)。